

2023年3月12日

「いのち救われる道」

ルカによる福音書 9:18-27

竹島 敏牧師

人は誰でも生まれてくる時も死ぬ時も一人なのであり、そのような意味においては孤独な存在であるのでしょう。しかし、それでもなお、イエスを自分の救い主と信じ、この方に従って歩むなら、苦難の多い孤独な道もすでに主イエスが先立っておられ、招いてくださっていることを見出すことができたなら、それはやがて復活へと導かれる輝かしい道へとなっていくことを、聖書は語っています。そして、このイエスに従って生きる生き方とそうでない生き方を私達の前に示し、あなたはどちらを選ぶのかと迫っています。

23節 24節において勧められているのは、イエスのために命を失うという生き方です。そしてそれが自分の命を救うというのです。命とはこの地上でその人が生きている時間であり、「失う」とは置き忘れる、無我夢中で忘れてしまうということ。イエスのために自分に与えられた時間をそれほどまでに献げること、それを「イエスのために命を失う」と表現しているのでありましょう。そしてその具体的な生き方として、自分の十字架を背負う生き方をイエスは弟子達に勧め、まず自らがその模範を示されたのです。「日々、自分の十字架を背負う」とは、私達がすでに背負っているもの、背負わされているものの上にさらに、ということではなく、その中に十字架を見出す、背負う意味を見出すということでありましょう。今、自分に与えられている課題や苦しみの中に十字架を見出し、希望をもって歩みなさいということです。それが命の尊さと儚さ、そしてどう生きどう死んでゆくかを問われている私達が、本当の命満たされる、救われて生きる生き方へと導かれる道であります。十字架の主を見つめながら、受難と復活の道を、命が救われ永遠の命へと導かれる道を歩んでゆけますように。